

小児等の脆弱性を考慮したリスク評価検討調査

193百万円(146百万円)

環境保健部環境安全課環境リスク評価室

1. 事業の概要

近年、子供に対する環境リスクが増大しているのではないかと懸念があり、環境中の有害物に対する小児の脆弱性について国内外で大きな関心が払われている。

「小児の環境保健に関する懇談会」における提言（平成18年8月）を受け、環境省では小児環境保健に関する重点プロジェクト研究を実施している。

懇談会における提言を受け、環境省では「出生コホート（追跡）調査」を実施することとなり、平成19年10月から「小児環境保健疫学調査に関する検討会」において検討を進めている。今後、調査手法について詳細に検討し、2年間のフィージビリティスタディ（予備調査）を経て、平成22年度より本格調査を開始する予定である。

2. 事業計画

小児環境保健に関する重点プロジェクト研究の推進

- ・小児の環境有害物に対するばく露評価手法の開発
- ・小児の感受性要因に着目した健康影響評価手法の開発
- ・小児のばく露評価、バイオマーカー開発及び試料バンキングの確立
- ・小児環境保健に関連する福祉施策の研究（人文科学研究）
- ・小児環境保健のリスクコミュニケーションに関する実践的研究

小児を取り巻く環境と健康との関連性における疫学調査の実施
(子どもの健康と環境に関する全国調査)

- ・20年度～21年度 フィージビリティスタディ（予備調査）の実施及び詳細な調査手法の検討

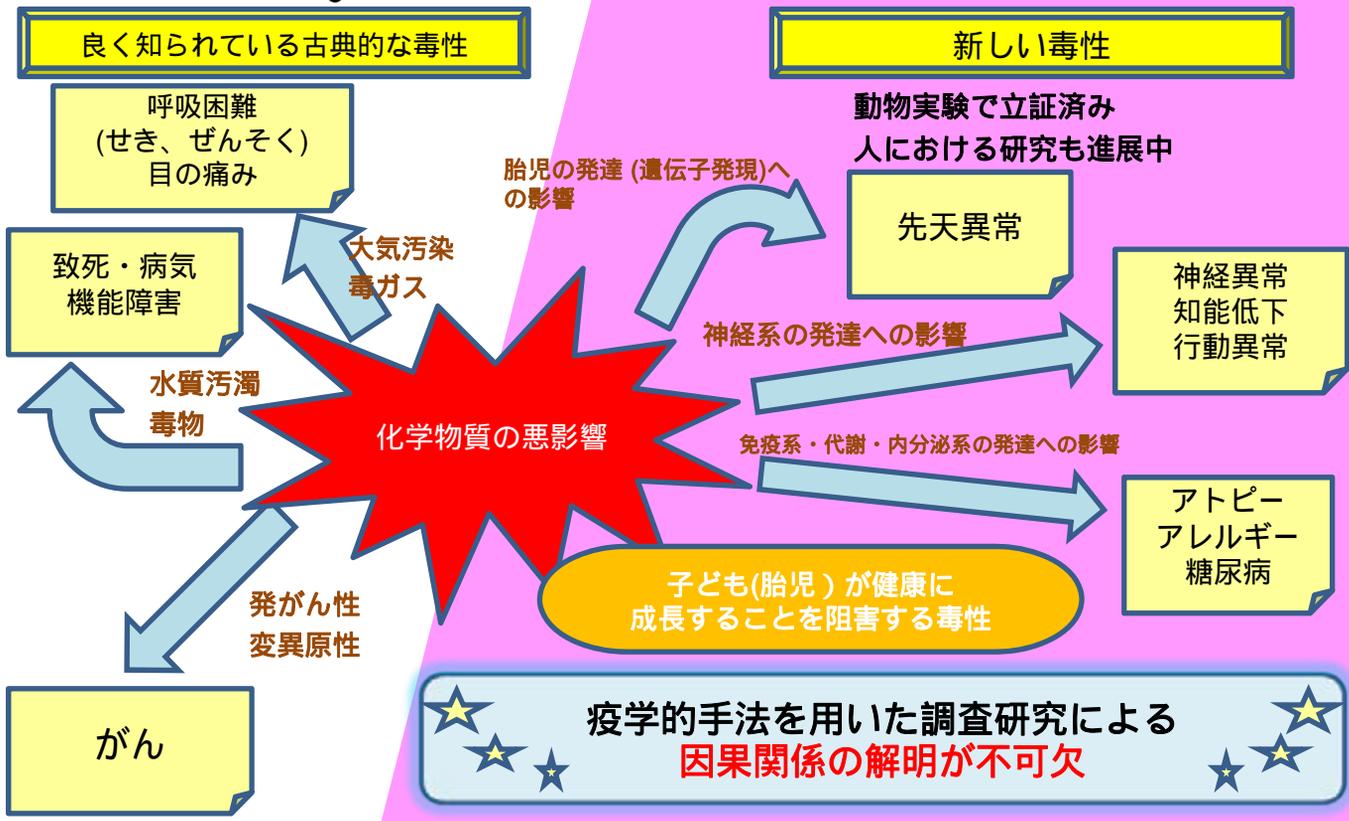
H21年度追加項目：専門家による検討の結果、本格実施前に、小児の心身発達チェックの予備調査、分析機関間の精度管理の実施が必要

- ・22年度～「出生コホート（追跡）調査」本格実施開始

3. 施策の効果

子どもの発育に与える環境要因が明らかとなれば、情報提供を通じて、適切なリスク管理体制の構築（自主的取組、審査基準、環境基準等への反映）へとつながる。

子どもを取り巻く環境



子どもの健康と環境に関する全国調査(環境省)スケジュール

